

テニスコート

2024. 6. 3

4月から、よくテニスコートに行っている。久しぶりにお会いする方が多い。「テニスコートに戻ってきました」と挨拶をしているが、それほど大げさなことではない。

小学校、中学校、高校、そして幼稚園に来た。小さな園児ばかりを見ていると、自分の中の尺度が狂うような気がしてこわい。どうせなら、小学生から高校生までを見る機会はないものだろうかと考えたことがある。

あった。テニスコートである。コートに行くと、知り合いの先生が監督を務めている高校が練習をしている。メキメキ力をつけているチームである。別のコートでは、こちらも知り合いの先生が顧問をしている高校が練習をしている。部員が増えてきた。

自分がおじゃましているクラブには、小学生と中学生がいる。したがって、テニスコートに行けば、一度に、小学生、中学生そして高校生を見ることができる。クラブチームの小学生は、上手である。だが、さすがに小学生らしい子どもっぽさがある。中学生はというと、技術的には、高校生にも勝てるのではないかというレベルである。小学生と比べると大人である。高校生はというと、落ち着きがあり、プレーも洗練されている。

よく考えてみると、一日に、幼稚園児から高校生までを見ることができるのは、実におもしろい。幼稚園にいれば、すぐ隣に小学校があるため、校庭で体育の授業をしている小学生を見ることができる。やはり、気になる。自分も、昔は、小学校で体育の授業をしていた。今思うと、よくやっていたと思う。どうしても、先生方のご労苦に思いがってしまう。

娘が小学生のときも、中学生のときも、よくテニスコートで練習をしていた。それが、いわば日常だった。幸いにも、自宅がテニスコートのすぐそばだった。歩いていける。小学生も中学生も高校生も、テニスコートで何を学んでいるだろうか。どんなことを身に付けているだろうか。技術的なことはもちろんだが、それだけではないだろう。クラブチームの中には、幼稚園のときからボールを打っている子どももいる。小学2年生にして、すでにうまいし、強い。クラブチームでは、このようなことが可能となる。

幼稚園児の年代では、何が大切なのか。そんなことを考える。キーワードは、“基礎”だろうか。基礎というものは、目には見えにくい。見えないものほど、大切である。思いやりや優しさもそうであろう。高校生にも、幼稚園時代があったはずである。今は、すばらしいプレーを披露している選手たちは、どのような幼稚園児だったのだろうか。テニスコートに行き、様々な視点で各コートを見ていると、なかなかおもしろい。